

# 日本分子生物学会 若手教育シンポジウム 若手教育ランチオンセミナー2011

## 研究者として独立するには？

(聴衆参加型レスポンスシステム導入)

2011年12月14日(水)

12:15~13:30 (年会2日目)

パシフィコ横浜 会議センター

3階 301 (第2会場) ※300席

司会: 小林 武彦 (遺伝研), 塩見 美喜子 (慶應大学)

今年は大震災により日本が非常な試練に直面する年となりました。研究室の内外で、生まれて初めて制限された環境での活動を余儀なくされている方は未だに多いはず。しかし、このような日々の困難は、我々に本質的なもの、無くてはならないものを強く認識する機会も与えています。今回で第5回となる若手教育シンポジウムでは、研究を生業とするとはどういうことか、研究者と研究の接点、そして研究の本質についてもう一度深く立ち返るべく、第一部では山中先生ご自身の研究史についての講演を、第二部では研究テーマの選定や研究生活の礎であるべきラボノートなどに関して聴衆参加型レスポンスシステムを利用しながら皆様と一緒に考えたいと思います。このシンポジウムが若い研究者の方々の未来を切り開く一助にならんことをワーキンググループ一同、願ってやみません。昨年同様お弁当も用意し、皆様のご参加をお待ちしております。



### 第一部: 講演(30分)

## 偶然と幸運から 生まれたiPS細胞

山中 伸弥

(京都大学iPS細胞研究所 所長)



### 第二部: 聴衆参加型パネルディスカッション(40分)

## 研究モラルとラボルール

隅藏 康一

(政策研究大学院大学 准教授)



### パネリスト

#### 日本分子生物学会若手教育問題ワーキンググループ



白髭 克彦  
(東京大学)

後藤 由季子  
(東京大学)

小林 武彦  
(遺伝研)

塩見 美喜子  
(慶應大学)

斎藤 通紀  
(京都大学)

上村 匡  
(京都大学)

※お弁当には限りがありますので、12月14日(水)午前8時より、バイオテクノロジーセミナーデスク(展示ホール 1階 第2受付)にて『参加整理券』を発売します。第一部と第二部を通して議論に参加下さる方々にお配りします。

※会場の皆様にはレシーバーをお配りし、皆様のご意見をリアルタイムに前方画面に表示する『レスポンスシステム』を導入します。

主催: 特定非営利活動法人 日本分子生物学会 協力: チエル(株)

特定非営利活動法人 日本分子生物学会 事務局

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋2-11-5 人材開発ビル4階 TEL: 03-3556-9600 FAX: 03-3556-9611 E-mail: info@mbsj.jp

